

■知的障害・肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

子どもたちが自ら読む喜び、知る楽しさを獲得することをめざして —マルチメディアDAISY図書活用推進に向けた試み

島根県立出雲養護学校

宮本佐知子・中村泰子・山本恵美子

はじめに

出雲養護学校の本校は、知的障害のある子どもたちのための学校です。小学部から高等部までの子どもたちが在籍し、肢体不自由や吸引など医療的ケアを必要とする子どもたちも通っています。

本校では、2013年から始まった校舎改修がすべて終わり、今年度は設備の整った落ち着いた環境の中でスタートしました。

本校図書館と利用環境

図書館は校舎のほぼ中央に位置しています。各学部からつながった渡り廊下によって雨風に当たらなくても行き来できるようになり、昼休みを中心に子どもたちでにぎわっています。



よく見ている「わいわい文庫」ポスター

マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」は、本校図書館の貴重な資料のひとつです。館内には「わいわい文庫」ポスターを掲示し、送っていただいた「わいわい文庫」CDは1冊ずつに分割して展示するなど目にふれる場所に置き、オリエンテーションではプロジェクターを使って視聴してもらうなど、周知を図ってきました。

昨年度、マルチメディアDAISY図書の入ったiPad 1台が利用できるようになり個別学習で役立ったことから、今年度は各学部で使うiPadすべてにマルチメディアDAISY図書を再生するアプリケーションソフト「イーリーダー」を入れてもらうことができ、手軽にマルチメディアDAISY図書が読める環境が整うことになりました。

実践の目的

そこで今年度は、どのような実態の子どもたちに、どのような内容のものがどう使えるのか、個別の事例の実践に取り組み、成果や課題を見ていくことにしました。

〈個別学習での活用事例〉

中学部1年の女子生徒Aさんは、知的障害と肢体不自由を併せ持っています。自分で身体を支えたり、自分の思うように身体を動かしたりすることはむずかしいのですが、まばたきやまゆ毛の動きなどの表情の変化や発声で、気持ちを表すことをねらって学習に取り組んでいます。もともと絵本がとても好きな生徒で、絵本の読み聞かせを聞いて、目を大きく開けたり、まばたきをたくさんしたり、発声したりして楽しい気持ちを表す姿が見られます。

Aさんの自立活動の学習で、個別学習として週に1回程度タブレット端末アプリ「イーリーダー」を使って学習しました。この学習では、「タブレット端末の読み聞かせを見聞きし、もっと見たり聞いたりしたいことを発声で伝える」ということをねらって取り組みました。『じごくのそうべえ』や『ともだちや』などを題材として使用しました。昨年度から、タブレット端末での読み聞かせ機能に親しんでいること、また、ふだんから慣れ親しんでいる題材のため、お話が始まると目を大きく見開いて意欲的に取り組もうとしている様子が見られました。

学習では、1ページ分の読み上げが終わったところで一時停止をして、生徒が発声でもっと読みたい、という気持ちを伝えたら次のページに進んで読

み上げをスタートさせるようにしました。はじめて数か月は、読み上げが終わると、続きが聞きたいということを伝えたいがどうしたらよいかかわからない、といった様子でした。「読んでほしいことを声に出して教えてね。」と言葉をかけ、繰り返し取り組むうちに、少しずつ声で伝えることが増えてきました。他の学習の場面でも、声を出して自分の気持ちを伝えることや、あいさつなどを教員と一緒に声に出して言うことに取り組んでいます。そのような学習の積み重ねもあり、声に出すことで、周りの人に伝わる経験を積み重ねてきています。



声を出してもっと読んでほしいことを伝えます

昨年度は、棒スイッチをiPadタッチャーでつなげ、自分で絵本を読み進められるような取り組みも行いました。

今年度は、ピエゾスイッチを使ってタブレット端末につなげ、生徒の微細な動きで絵本を読み進める取り組みも始めました。生徒が意欲的に活動に向かえる、このような取り組みをこれか

らも積み重ねていきたいと思います。

肢体不自由学級での活用事例

Bさんは、肢体不自由のある高等部の生徒です。視力や意味のある発語はほとんどありませんが、お話や歌が大好きで笑顔のステキな生徒です。ふだんから、給食の準備ができるのを待つ時間などに、動画再生アプリなどを使ってお話や歌を楽しんでいます。

今回は、iPadを用いて『ももたろう』のお話の読み聞かせを行いました。いつもかかわっている担任に、今回の取り組みで気づいたことを聞いてみました。

- 動画再生アプリでは、場面によってBGMや効果音があり、その音を聞けば大体お話の流れがわかるが、マルチメディアDAISY図書はそれがないのでとてもよく聞いている様子が見られた。たとえば、きびだんごを食べる場面ではうれしそうに笑っていたり、戦いの場面では体を動かしたりして反応していた。
- お話の最中は、体の動きを止めて集中して考えながら聞いている様子が見られた。
- 淡々とした語り口なので途中で眠ってしまうのではないかと思ったが、最後までよく聞いていた。2回繰り返し聞いたが、2回目もしっかり聞いていた。
- 動画再生アプリでは、途中で広告が

入り、その音でびっくりしてしまうことがあるが、それがないので安心して取り組める。

担任から聞いたマルチメディアDAISY図書の取り組みの様子から、絵や文字に注目することはむずかしい子どもたちへもさまざまなねらいをもって活用できることが改めてわかりました。今後、待ち時間に聞くだけではなく、授業への導入等にも活用の幅を広げていけるよう環境整備を進めていきたいと思います。



『ももたろう』聞いているよ！

読書支援による活用事例

毎月、昼休みに図書館主催のお話を、小学部と中学部で行っています。お話の好きな子どもたちが集まってくるので、大型絵本の読み聞かせやマルチメディアDAISY図書を利用して、お話を楽しんでいます。

小学部のお話会で、学習発表会に向けて低学年が利用していた『へんしんトンネル』をマルチメディアDAISY図書で視聴した時には、読み語りに合わせて聞き覚えのあることばを口々に唱えながら、ことばの変化を楽しみました。



小学部お話会

車椅子を利用しているCさんは、6年生になってよくお話会に参加するようになり、この日も他学年の子どもたちと一緒に楽しんでいました。また、Cさんは図書館で先生に読み聞かせをしてもらうことも多く、少し長いお話も聞くことができるので、マルチメディアDAISY図書を紹介し、iPadを使って見てもらいました。

教室で『がたんごとん がたんごとん ざぶんざぶん』を読んだ時には、「のせてください」の繰り返しと読み方がおかしくて笑ってしまいました。同じ教室にいる子どもや先生も興味津々に

なり、2人の子どもも合流して、このお話を繰り返し聞いて楽しむことができました。

この時のお話のスタートボタンを押したのは、Cさん。Cさんは右手に麻痺があり、左手が利き手です。ボタンを押すと話を始めたり止めたりできることを教えてもらい、操作にも興味をもって取り組むことができました。担任の先生によると、「操作が面白かった。またお話を聞きたい」というCさんの感想も聞くことができました。今後は操作に慣れ、iPadに入っている本を自分で選んで読むことができるよう、担任の先生と相談しながら支援していきたいと思います。



『クレヨンのかくくん』を読んでいます

おわりに

マルチメディアDAISY図書が読めるiPadが増えたことにより、ニーズに沿った利用を広げることができるようになってきました。

iPadには、お話の長さや分かち読みなどのジャンル別に収納しておく、子どもたちの実態に合わせて選びやすく利用しやすくなります。

今後は先生方に実践事例の紹介を行うとともに、こうしたマルチメディアDAISY図書の内容や操作方法を知ってもらい、ニーズのある子どもたちに届くよう、実践を進めていきたいと思えます。